

農民作家

# 山下

YAMASHITA  
Soichi

# 惣一 さんに伺いました

聞き手

田中 幹士  
編集委員

古木 岳美  
編集委員

[writer] 駒崎 文男  
[photo] 崔 健三

バランスの取れた日本型食生活にすれば、日本の田んぼが守られ、  
農山漁村が元気になり、食料自給率50%が維持できる社会になる。

2008年9月25日（木） 土木学会役員会議室

**このままでは  
農業をやる人がいなくなる**

—— 山下さんは40年農業をやりながら、農政  
についてさまざまな発言を続けられています  
が、日本農業の現状をどうとらえているか、率  
直な意見をお聞かせいただけますか。

**山下**——日本の農業はいよいよどん詰まり、ど  
うにかしなければならぬというところに来て  
いると感じています。このままあと10年経つと、  
農業をやる人がいなくなります。

日本の農業は、戦後の農地解放から始まりま  
した。大まかに言つて600万町歩を600万戸  
で耕すということで、1戸につき1町歩、およそ  
1haでスタートしたわけです。それが60年経つて、  
今、農家の約半分がいなくなつてしまいました。

業として農業を行っている農業就業人口は、  
2006年の統計で320万人。総人口の約  
2.7%で、国民100人のうち3人もいない。し  
かも、そのうちの約7割は60歳以上です。耕作放  
棄地も増えていて、日本の農地の約1割にあた  
りますが、そうなつてくると、田舎に人が住めな  
くなる。しかも未婚の女性がいないので、息子が  
残つても後が続かない。これが、全国の農山漁村  
でいつせいに進行しているわけです。日本と  
いう国が土台から減びていつていと言えます。  
これは放つておくわけにはいきません。

たとえば、今は環境問題一つとっても、農業を  
大切にしなければならぬ時代になつています。  
農水省の中田哲也さんが書いた『フードマイレ  
ージ』という本によれば、2001年日本が輸入  
した食料の総量は5800万t。226の国・地  
域から輸入しており、その平均輸送距離は1万  
5000kmで、日本のフードマイレージは世界で  
ダントツです。つくれないものはしょうがあり

ませんが、国内の田んぼを遊ばせておいて、地  
球の裏側から運んでくるというのは愚の骨頂だ  
し、それを地場産に置き換えるだけで、二酸化  
炭素の排出量はうんと減る。これは、国として  
の社会的責任ではないでしょうか。

**国の食料自給率には意味がない**

——日本のカロリーベースの食料自給率は、  
ずっと低下を続けて2006年度は39%でし  
たが、2007年度は1ポイント増加し40%と  
なりました。食料自給率のアップはどこまで可  
能なのでしょう。

**山下**——食料自給率は、国民に供給する熱量  
を分母にして、国産のものを分子にしているわけ  
ですが、これが1ポイント上がった、下がったとい  
うことには、私はほとんど意味がないと思つていま  
す。国が言っている自給率のとらえ方でいくと、高  
いということはその地域の主要な産業がなんであ



### 山下 惣一(やました・そういち)さん プロフィール

1936年、佐賀県唐津市の農家の長男に生まれる。中学卒業後家業の農業に従事、現在に至る。農家のかたわら農業現場、生産者の視点で発言を続けている。アジア農民交流センター共同代表。著書『身土不二の探究』ほか多数。

るかの証明にしかありません。たとえば、米国のアイオワ州の自給率が200%としますと、つくっているのは全部世界の家畜用とバイオエタノール用のトウモロコシですから、そこに住んでいる人にとっては自給率が高くてもあまり意味がない。そういうことを考えると、私は国が言っている自給率ではなくて、たとえば佐賀県の農業が佐賀県に住んでいる人の食べ物をどれだけ供給しているかという地べたの「地給率」を高めていって、その結果として国の自給率が高まるということが大切だと思っています。資源争奪の時代を迎えて、1億2000万人の国民の食料の、せめて半分は国内でつくるということは、国民の合意が成り立つとは思いません。ですから、50%

はいくのではないのでしょうか。

### 国民が1日1膳米の消費を増やす

——食料自給率50%が国民的合意を得られるとして、そのためにはどういふことが必要になってくるのでしょうか。

**山下**——それは二つ。農業生産者を増やすことと、消費を変えていくということしかありません。食料自給率を下げたのは、農業の側にも責任はあるかもしれませんが、7割は消費者にあると私は思っています。

ですから、米以外を食べている人たちに、1日1食、米に戻ってきてほしい。昨年自給率が1%

上がりましたが、米の消費では、1人当たり年間400g増えたそうです。1日にすると、1.09g。1日で1円玉1個分前年よりも米を多く食べたということになります。たったそれだけでも1億2000万人を掛けると、4万8000tになる。1haつくっている農家が1万戸米づくりに帰ってこられる計算です。

これを1日1膳にすると、300万t消費が増える。1人年間で86kg。これは1976年の消費量で、1980年にでた米国のマクガバン報告で、日本型食生活が一番理想だと、初めて日本の食生活が世界から評価された頃です。ご飯をメインにすると、おかずが違ってきて、バランスが良くなるし、メタボ検診もしなくてよくなる。そうすると、日本の田んぼが守られ、農山漁村が元気になって、食料自給率50%が維持できる社会になる。そうなればいいなと思っています。

——「食への土木の貢献」について、アドバイスはありますか。

**山下**——農業土木で言えば、今、耕作放棄されているのは、基盤整備されていないところ。条件の良くないところを、可能な限り条件を良くするというのは当然のこと、これから耕作放棄地の再生という話も出てくると思います。土木の力が求められるのではないのでしょうか。経済というのは儲かったか損をしたかという話ですが、食料というのは生きるか死ぬかの問題です。そのところを、もう少し大事に考えてほしいと思います。